



ミネベア株式会社中間決算説明会

2002年3月期中間決算

2001(平成13)年11月16日

代表取締役社長 山本次男

2002年3月期 上期業績サマリー

(単位:百万円)	00/上期 2000.4-9	00/下期 2000.10-2001.3	01/上期 2001.4-9	前年同期比 伸び率	01/上期 期初予想
売上高	142,124	144,921	136,882	-3.6%	140,000
営業利益	17,177	15,800	12,496	-27.2%	14,500
経常利益	12,987	11,739	8,952	-31.0%	10,500
当期利益	7,084	7,742	4,384	-38.1%	6,000

アクタスを除く本業（前年同期比）売上0.2%減、営業利益25.1%減

為替レートの変動 前年度上期 107円→123円
影響額 売上79億円増、営業利益5億円増

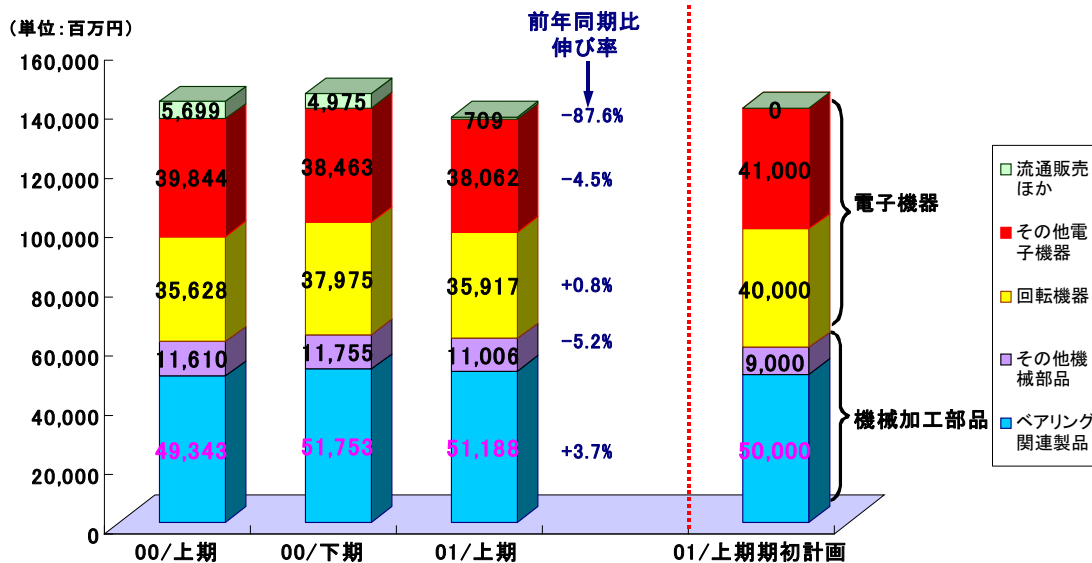
公表値よりも
若干厳しい状況

上半期は、年初からのIT業界の急激な落ち込みに端を発し、世界的な景気の減速がみられ、当社の主力市場である情報通信機器関連市場も低迷しました。このような状況の中、上期の業績は上記の通り、期初の見込みをやや下回る結果となりました。

尚、輸入家具販売事業のアクタスを本年2月に売却したことによる収益の目減りがあり、アクタスの収益を除いた本業の収益の比較では、売上高は前年同期比0.2%減、営業利益は25.1%減となりました。

一方、今上期の為替レートはUSドルに対して大幅な円安となっておりますので、収入を押し上げる要因となりました。

セグメント別売上内訳

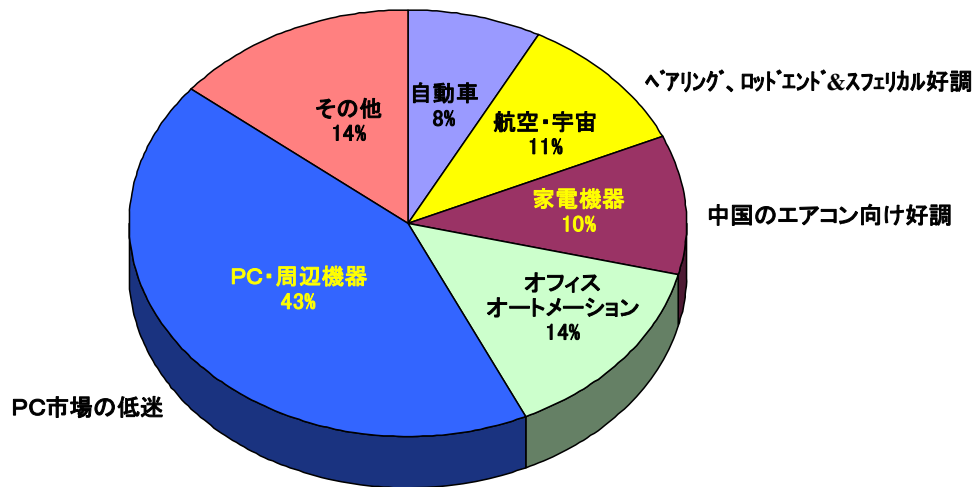


機械加工品セグメントにおいては、主力製品のボールベアリングは、PC用ファンモーター向けの不振により外販が減少したため、7～9月期の生産は4～6月期から減少しました。ピボットアッシーはHDD業界の動向の影響を受け、伸び悩みました。それにも関わらず、ベアリング関連製品の売上が期初計画を上回ったのは、昨年後半からの航空機業界の回復により、ボールベアリングとロッドエンドベアリング&スフェリカルベアリングの売上が大変好調であったためです。

電子機器セグメントが計画未達であった最大の要因は、PC関連製品の需要の低迷です。しかし、回転機器事業が前年同期比0.8%の増収だったのは、スピンドルモーターのシェア拡大により売上を大幅に伸ばしたからです。また、キーボードは高付加価値機種への転換を積極的に進めた結果、好調に推移しました。電源とスピーカーは、事業のてこ入れを実施したこともありほぼ計画通りの売上高を達成しました。

用途別売上比率

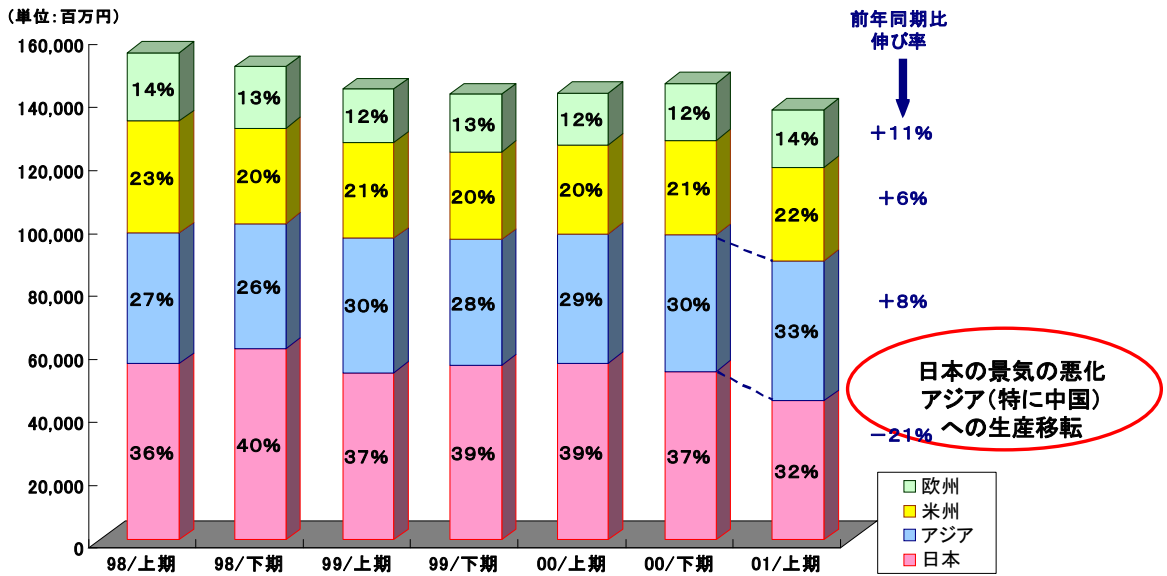
2001/上期(全製品)



* スキャナー・プリンター向売上を「オフィスオートメーション(情報通信改め)」に組替えた

各製品の動向は、用途別売上内訳に顕著に表れています。PC・周辺機器向けの売上は全体の4割強を占めますが、前年同期と比較して2%の減収となりました。一方、好調であった航空・宇宙業界向けの売上は前年同期比26%増加し、また、家電機器業界向けは中国におけるエアコン向けボールベアリングの好調を反映して、前年同期比13%増収となりました。尚、用途別の内訳の集計を今期から一部変更し、PC関連からプリンター等のOA機器を取り出しオフィスオートメーションの一部としています。

地域別売上比率

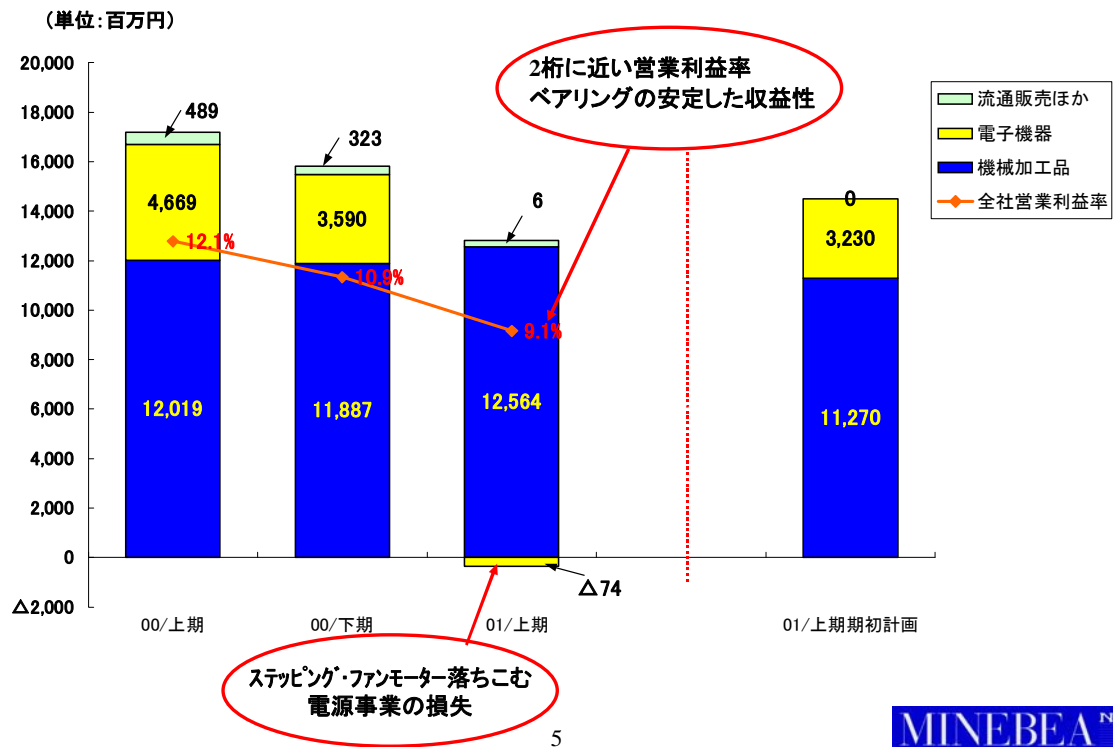


4

MINEBEA NME

地域別では、日本国内の売上が前年同期比21%減と大幅に落ち込みました。これは、国内景気の悪化に加えて、当社の顧客がアジア、特に中国への生産移管を加速化していることに起因します。

セグメント別営業利益



上期の営業利益率は9.1%に低下しました。PC関連製品の売上落ち込みを受けて電子機器の営業利益はマイナスに転じましたが、その原因は、ステップングモーターとファンモーターの利益の落ち込みに加えて、電源事業が改善には至っていないためです。しかし、利益貢献度の高いベアリングの収益性が比較的安定しているため、需要環境低迷にも関わらず、全社で2桁に近い営業利益率を達成できました。

通期業績サマリー

(単位:百万円)	前年度 通期	01/上期	01/下期 予想	通期予想	前年同期 伸び率	通期期初 予想
売上高	287,045	136,882	123,118	260,000	-9.4%	300,000
営業利益	32,977	12,496	9,204	21,700	-34.2%	33,000
経常利益	24,726	8,952	6,048	15,000	-39.3%	25,000
当期利益	14,826	4,384	1,116	5,500	-62.9%	15,000

通期の業績については、期初予想を上記の通り減額修正いたしました。

上期から続いているPC市場の低迷に加え、世界的に景気は一段と後退しており、また、特に来年1～3月期の見通しは不透明な状況です。IDCやデータクエストなどの調査によりますと、7～9月期の世界のPC出荷実績は、当初予想を大幅に下回る前年同期比12～14%減となりました。当社では、10～12月期のクリスマス商戦による需要増を若干期待しておりますが、今年のPC市場は前年比5%減程度になるのではないかと見ています。HDD市場の見通しについては、ピックアップの速報ベースの予想では、今年は2億250万台、前年比8%増となっています。

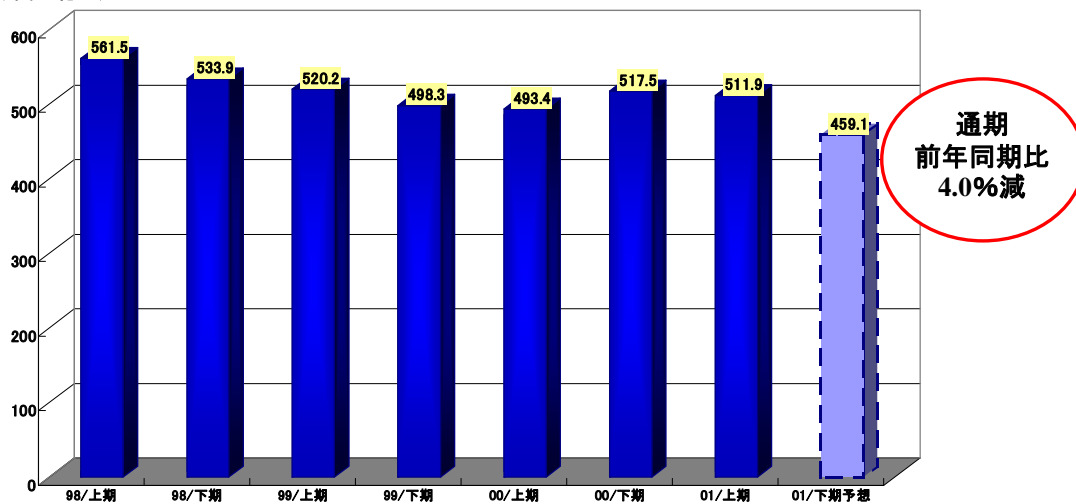
セグメント別売上・営業利益

(単位:百万円)	前年度 通期	01/上期	01/下期 予想	通期予想	前年比 伸び率	通期期初 計画
〔売上高〕						
機械加工部品	124,461	62,194	54,006	116,200	-6.6%	124,000
ベアリング関連	101,096	51,188	45,912	97,100	-4.0%	105,000
その他機械部品	23,365	11,006	8,094	19,100	-18.3%	19,000
電子機器	151,910	73,979	69,021	143,000	-5.9%	176,000
回転機器	73,603	35,917	38,583	74,500	1.2%	90,000
その他電子機器	78,307	38,062	30,438	68,500	-12.5%	86,000
流通その他	10,674	709	91	800	-92.5%	0
合計	287,045	136,882	123,118	260,000	-9.4%	476,000
〔営業利益〕						
機械加工部品	23,906	12,564	9,204	21,768	-9%	23,800
電子機器	8,259	△ 74	0	△ 74	-	9,200
流通その他	812	6	0	6	-	-
合計	32,977	12,496	9,204	21,700	-34%	33,000

上記のような需要環境を受けて、単価引き下げ圧力も増していることから、下半期の業績については、慎重な見方をいたしました。

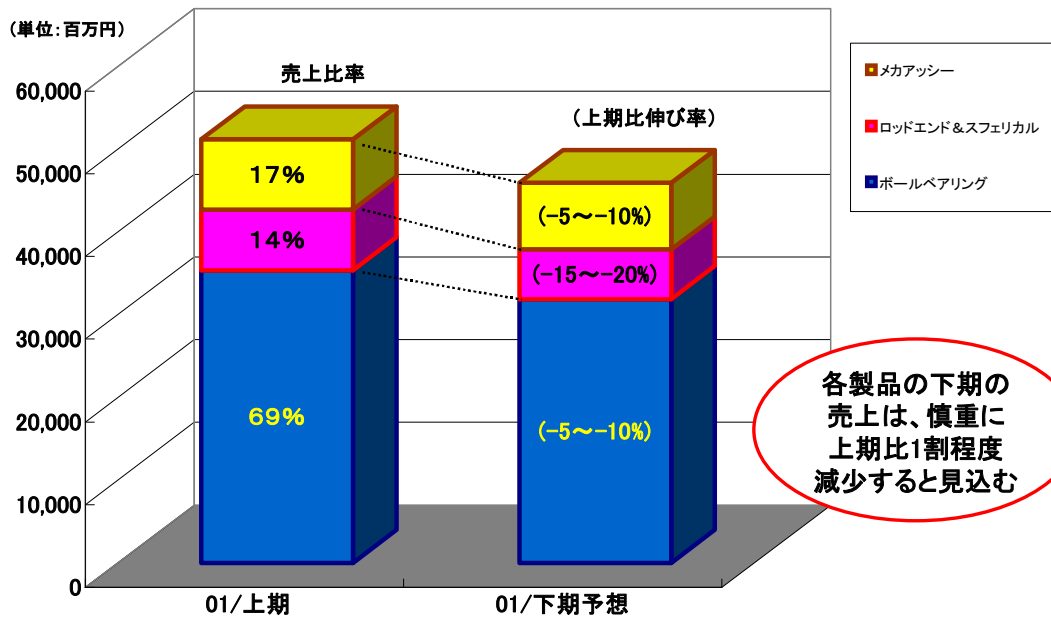
ベアリング関連製品売上推移

(単位: 億円)



ベアリング関連製品は、前年同期比4.0%の減収を予想しています。

ベアリング関連製品売上比率



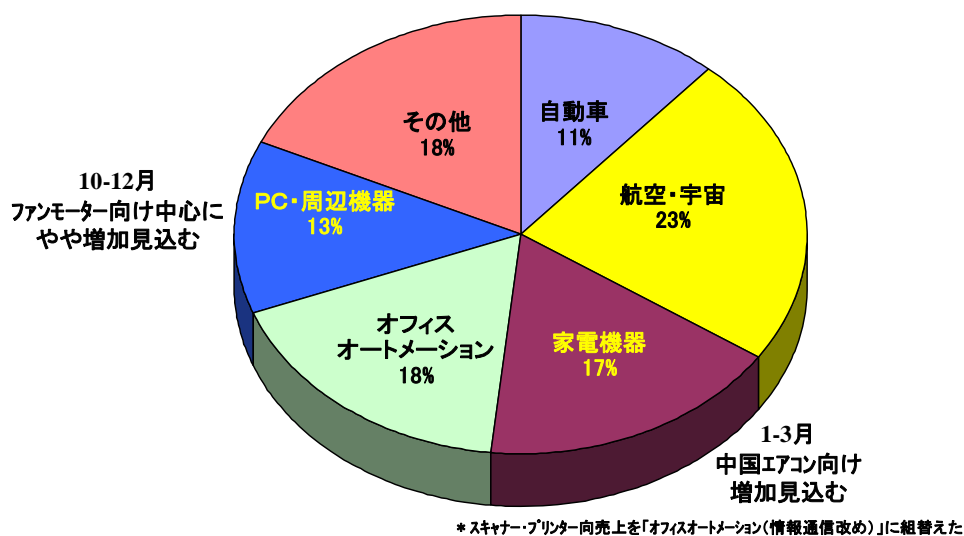
9

MINEBEA NMB

事業環境を考慮して各製品の下期の売上が上期比1割程度減少すると慎重な見方をしました。

ベアリング用途別売上比率

2001/上期(ベアリング)



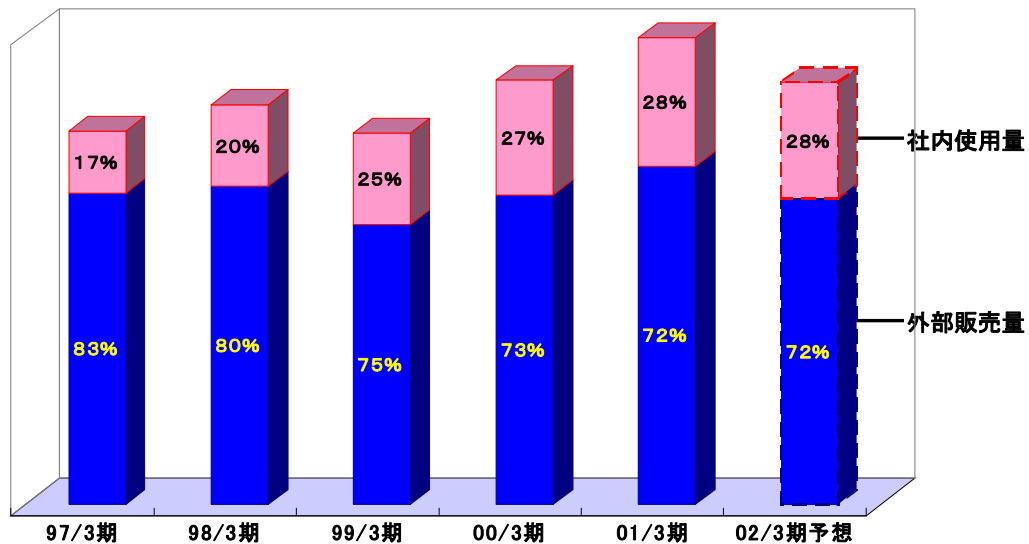
10

MINEBEA NMB

ベアリング関連製品の売上の約8割を占めるベアリングの用途は、多岐に渡ります。直近のボールベアリングの生産・販売は、月1億2,000万個程度まで減少していますが、10～12月期は、ファンモーター向けを中心とするPC関連の売上がやや持ち直し、1～3月期は中国・東南アジア向けエアコン用ベアリングの外販が増加すると見込まれることから、現在の水準は維持すると考えられます。

ホールヘアリング生産・販売数量

01年上期 月平均1億3000万個弱  01年下期予想 月平均1億2千万個

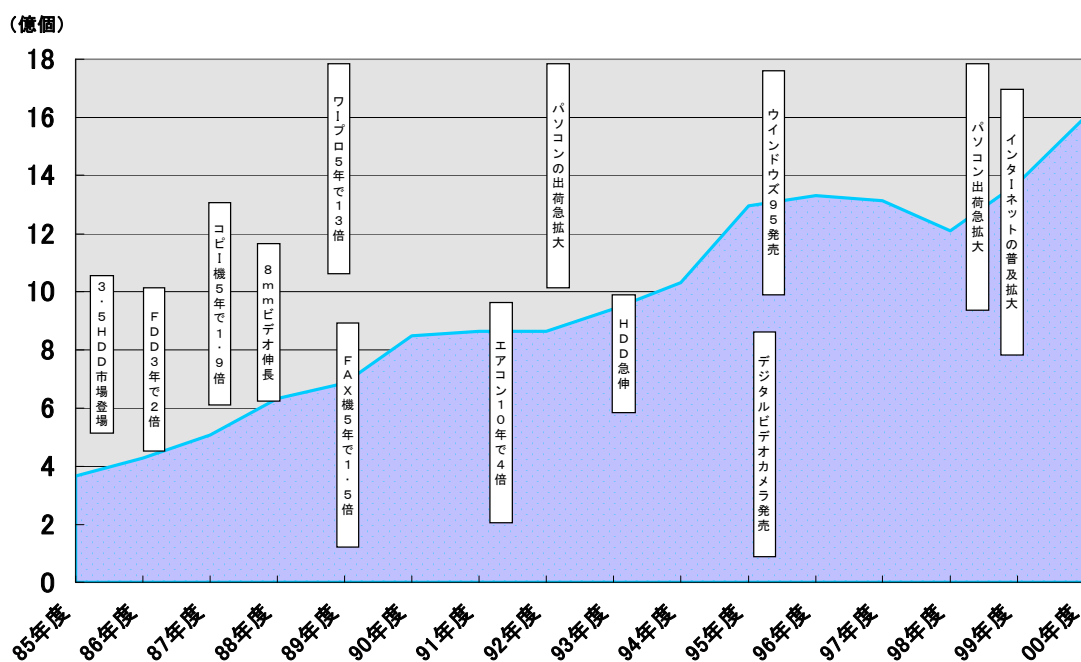


11

MINEBEA NMB

従って、下期は月産平均1億2,000万個を計画しています。尚、上期の生産・販売は月平均1億3,000万個弱で推移し、社内使用比率は28%程度でした。下期も、社内使用比率は変わらない見込みです。

ミネベアのミニチュア・小径ベアリング出荷数推移

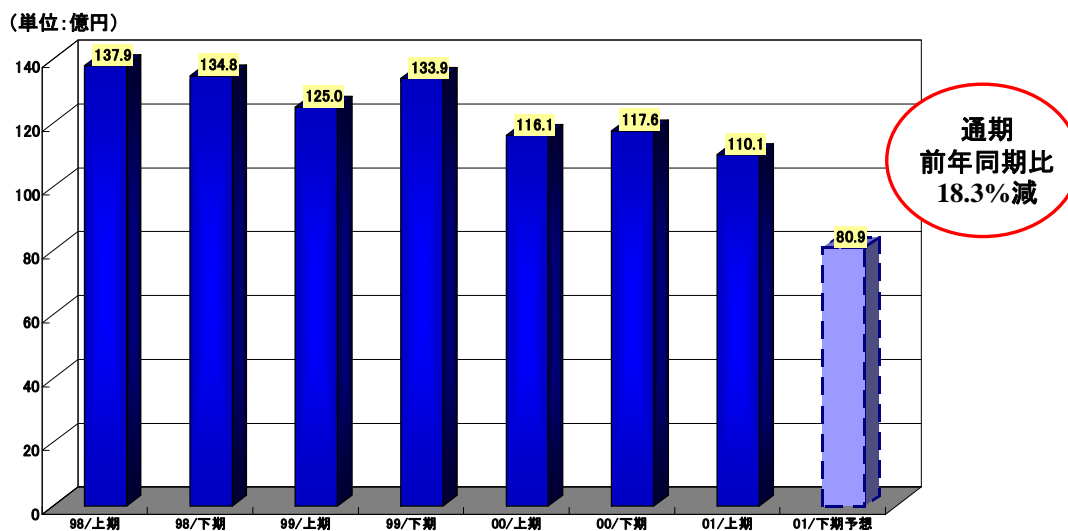


12

MINEBEA NME

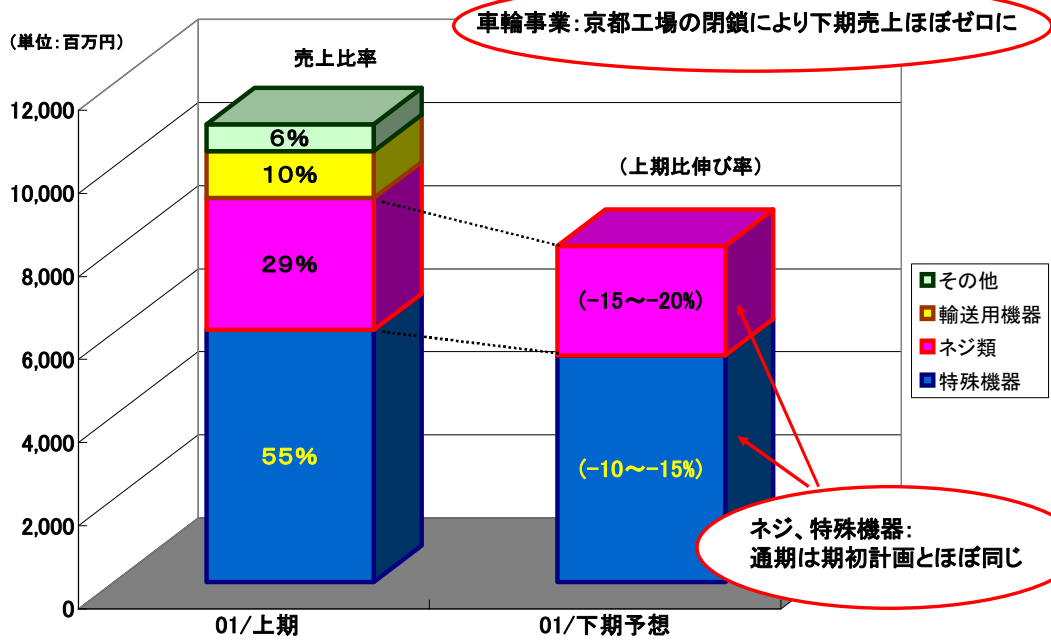
ミニチュア・小径ベアリングの需要は長期的には拡大するものとみています。世界の市場の拡大に合わせ、当社のミニチュア・小径ボールベアリングは、10年毎にほぼ倍増のペースで拡大してきました。それは、家電から自動車まであらゆる分野で小型精密モーターの使用が増え続ける一方であるからです。当社としては、世界シェア6割の強みを生かして、今後も積極的な売上の拡大を図る所存です。

その他機械加工部品売上推移



その他機械加工部品の売上は、通期18.3%減を見込んでいます。

その他機械加工部品売上比率



14

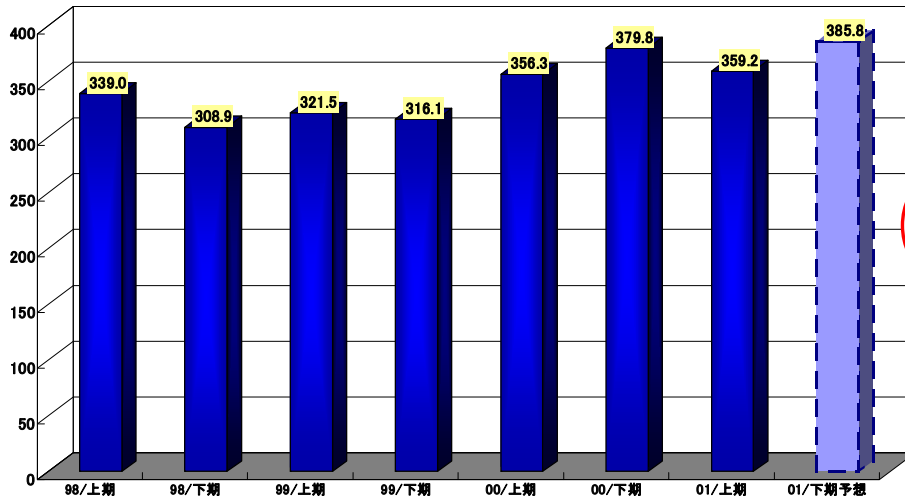
MINEBEA NME

最大の減収要因は、車輪を製造する京都工場の閉鎖です。尚、ネジ類事業のリストラは計画通り進展しています。

回転機器売上推移

第2の柱に育てることを目標

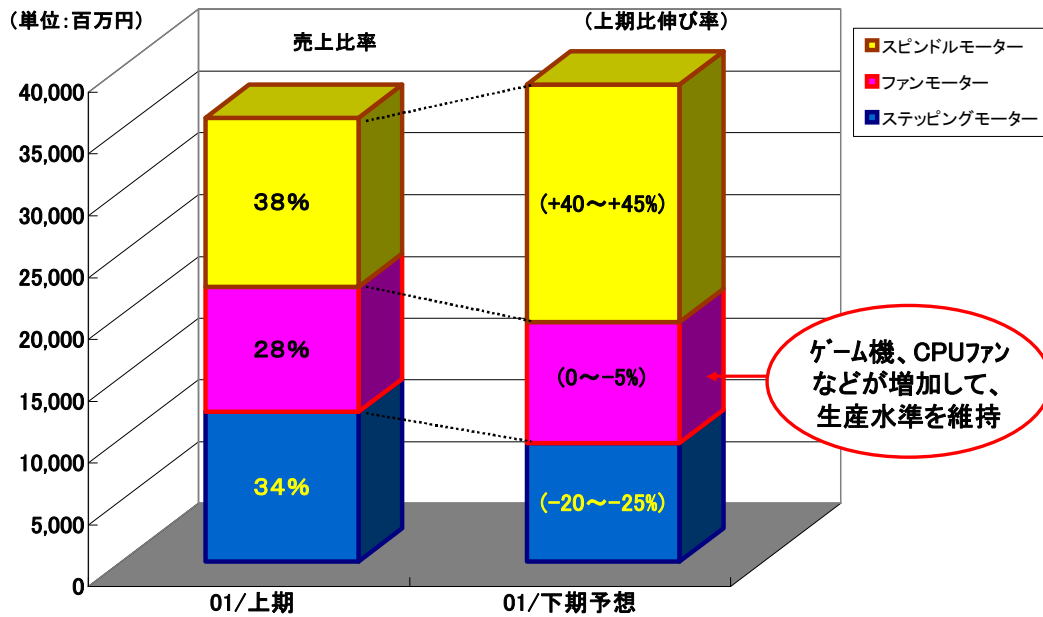
(単位: 億円)



通期
前年同期比
1.2%増

回転機器事業の売上は、通期1.2%の増収を見込みます。

回転機器売上比率



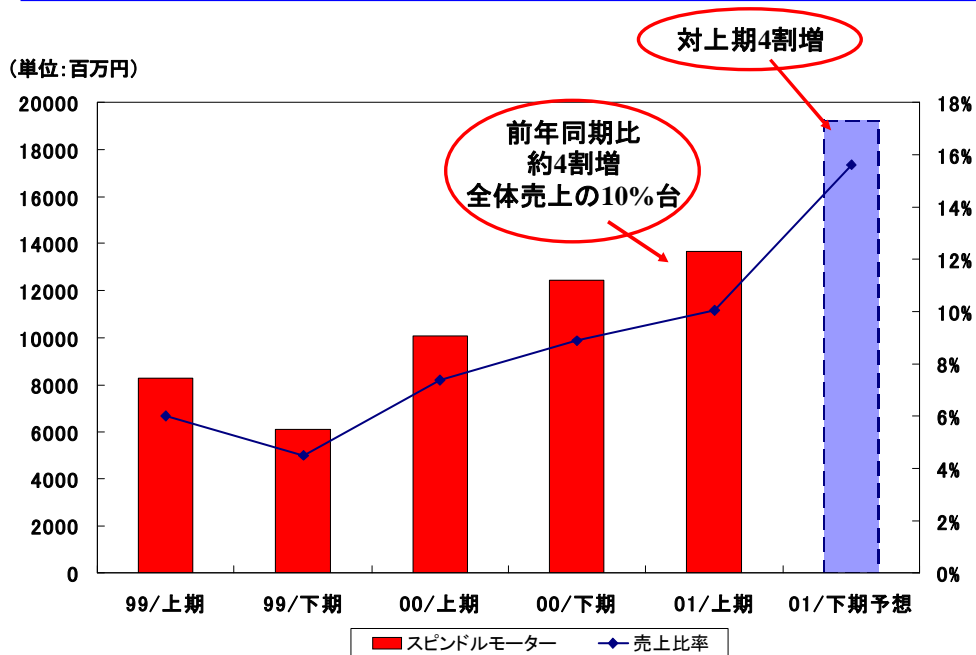
16

MINEBEA NMB

ファンモーターは、上期はゲーム機やCPUクーリングファンの分野に新規参入を果たしました。両分野への納入はすでに開始しており数量が増えつつあります。従って、PC向けを中心に需要の低迷が懸念されるなかでも、当社のファンモーターは下期も堅調な出荷水準を維持できる見通しです。今後は、部品の合理化による原価低減を図り、一層の市場シェア拡大を狙います。

ステッピングモーターは、プリンター等の市場の低迷により下期の売上は厳しいものとみています。

スピンドルモーター 売上推移



17

MINEBEA NMB

当社では、精密小型モーターを中心とする回転機器事業を、ベアリング関連事業に並ぶ柱に育て上げることを経営の目標の一つとしていますが、今期は、スピンドルモーター事業において、その成果は顕著に表れています。

スピンドルモーター事業の売上は、上期は前年同期比約4割の増収を達成し、全体売上に占める割合は初めて10%台に乗りました。下期も上期比4割以上の増収が見込まれ、確実にミネベアの中核製品になる見通しです。

流体軸受搭載型モーター生産数量推移



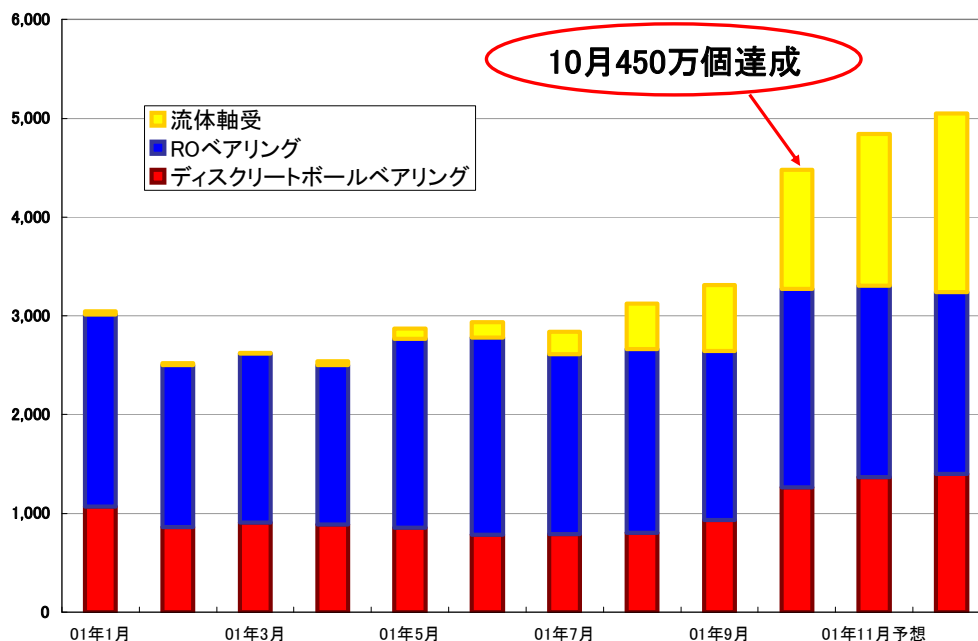
18

MINEBEA NMB

スピンドルモーター事業の成長は、上期から量産が本格化した流体軸受モーターの好調によるものです。当社の流体軸受搭載型HDD用スピンドルモーターの生産は、9月の70万台から10月は125万台へと大幅な生産引き上げに成功し、11月は155万台、12月は180万台と、10月以降は、9月末のプレスリリースで発表した数字を上回る状況です。これは、流体軸受モーターの量産をトラブルなく大変急速なペースで立ち上げることができ、精度と信頼性という両面においてユーザーの圧倒的な信頼を勝ち得ているからです。

ベアリングタイプ別スピンドルモーター生産推移

(月産 単位:千台)



19

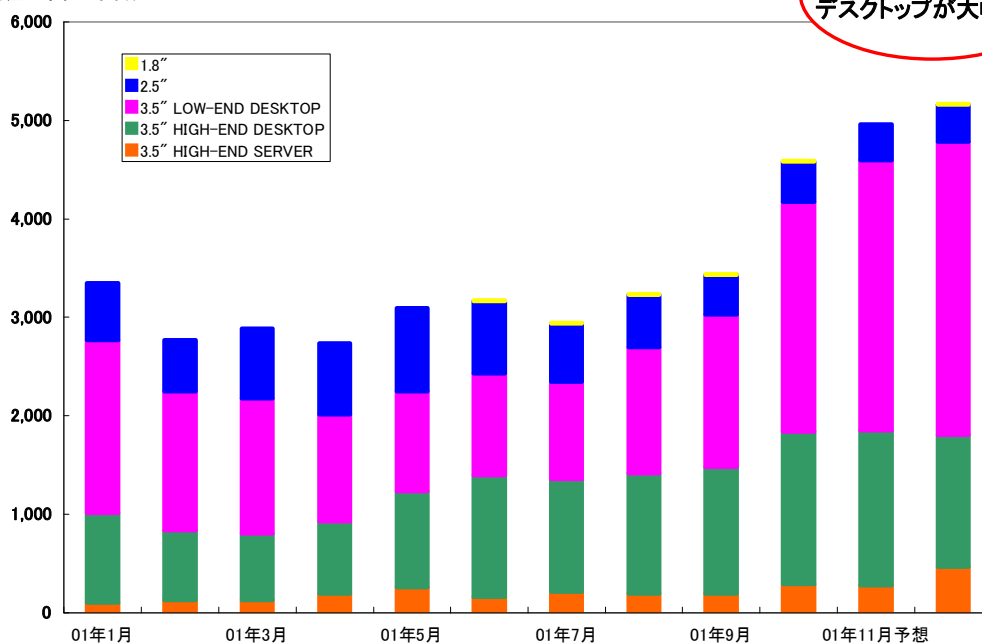
MINEBEA NMB

当社のモーターは、3.5インチ、2.5インチ両分野で最新機種に採用され、技術面及び性能面において当社は最先端を走っています。2.5インチでは、プラッター20ギガ用HDDに、当社のROベアリングモーターが市場で実質唯一の量産製品として採用されており、またプラッターあたり40ギガの3.5インチでは、当社のFDBモーターが最も多く採用されています。このような結果、当社のスピンドルモーターの生産は、10月450万台に達しました。

タイプ別スピンドルモーター 生産推移

(月産 単位:千台)

3.5インチローエンド
デスクトップが大幅増加



20

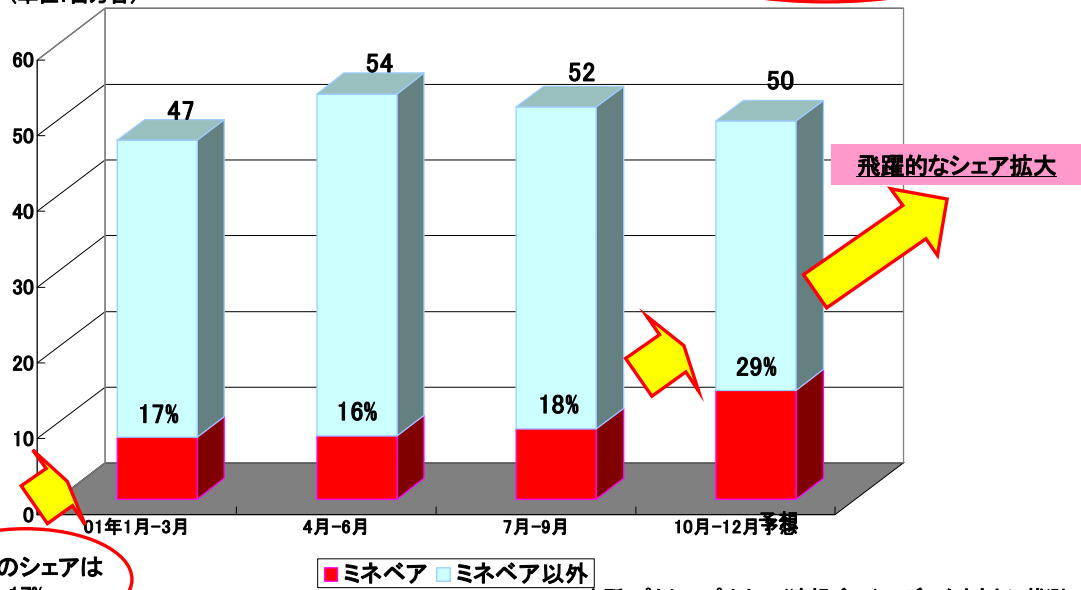
MINEBEA NMB

当社は、FDBモーターの成功により、最大のボリュームゾーンである3.5インチローエンドデスクトップ市場への参入を果たしました。

スピンドルモーター シェア推移

3.5インチデスクトップ用では
ミネベアシェア
昨年 17% → 7-9月 20% →
10-12月 33%予想

(単位:百万台)



昨年のシェアは
17%

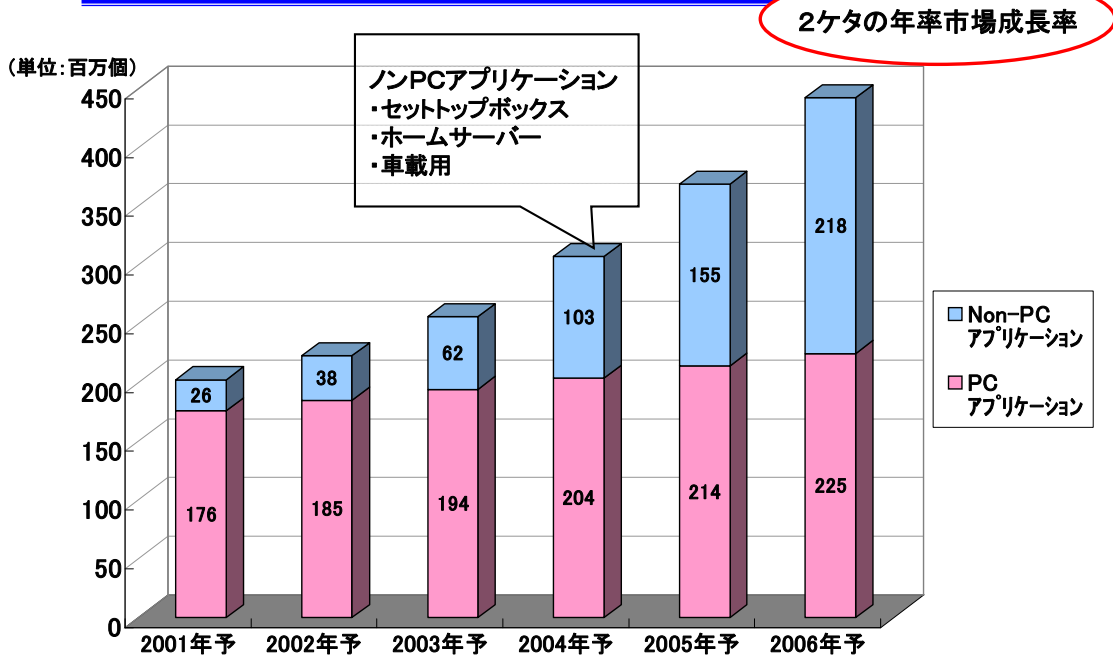
■ ミネベア ■ ミネベア以外

出所:ピクシーピナクル(速報ベース)のデータをもとに推測

MINEBEA NMB

その結果、当社の3.5インチデスクトップHDD用スピンドルモーターのシェアは昨年の17%から7～9月期は20%に、10～12月期は33%に上昇すると予想され、また、HDD用スピンドルモーター市場全体でのシェアは、昨年17%から、7～9月期は18%に、10～12月期は29%に達する見通しです。

HDD市場予想



出所:ピクシーピナクル(速報ベース)

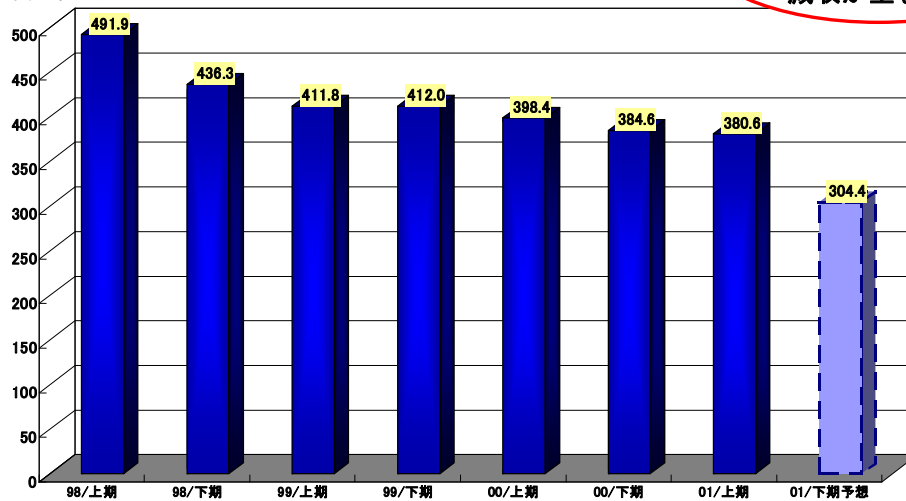


HDD市場は、PC以外の分野での拡大が急速に進んでおり、来年は10%の市場成長率、長期的にも年率2桁の成長率が予想されます。ノンPCアプリケーションとして、パーソナルビデオレコーダーやセットトップボックス、ホームサーバー及びカーナビの3つの分野が期待され、2006年には全体需要の半分を占めると予想されています。尚、今期はスピンドルモーター事業の利益貢献は僅かですが、FDBモーターは部品点数が少ない上に当社の超精密機械加工技術をフルに生かした製造が実現できているため、利益率は増産とともに10月から利益ベースにのりました。

その他電子機器売上推移

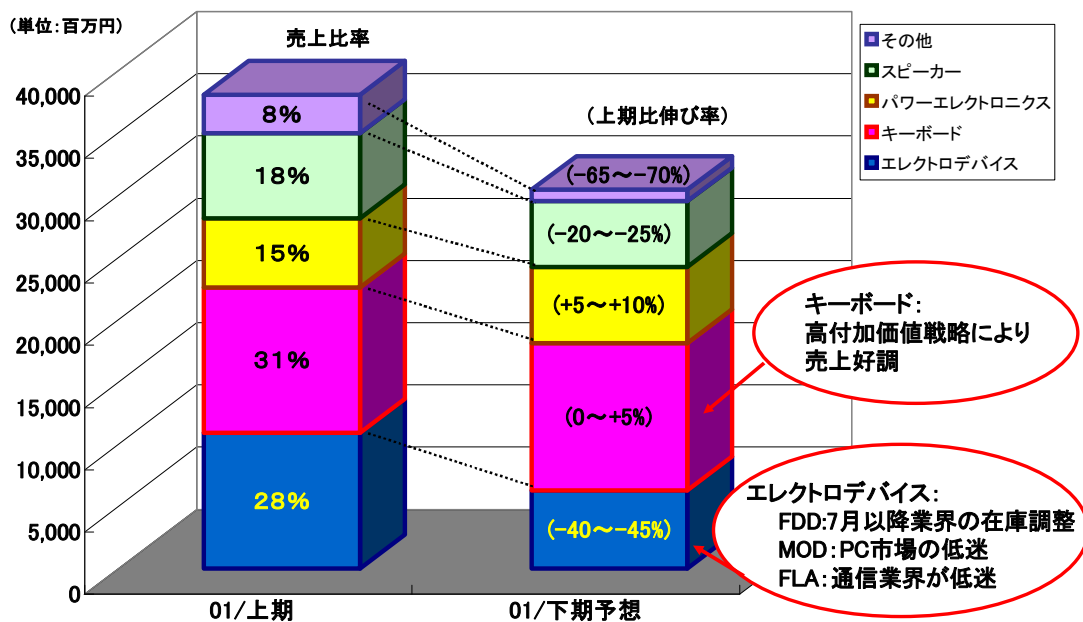
通期前年同期比
12.5%減
エレクトロデバイスの
減収が主な要因

(単位: 億円)



その他電子機器の売上は、12.5%減の見通しです。

その他電子機器売上比率



24

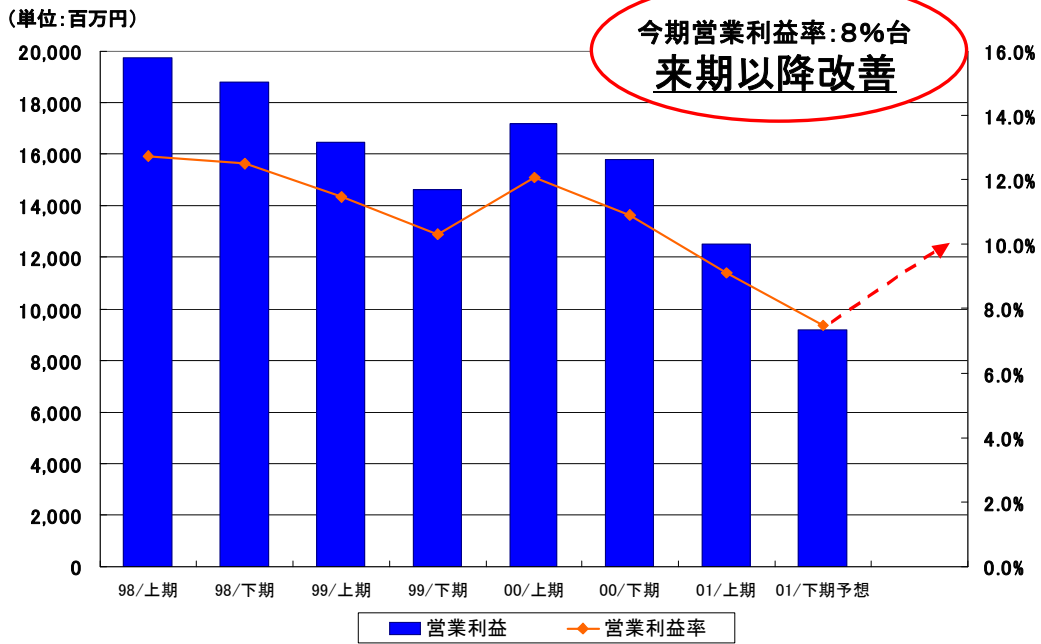
MINEBEA NMB

当部門の減収の主な要因はエレクトロデバイスの落ち込みです。

一方、キーボードは、当社製品の品質に対する大手PCメーカーの評価が高い上に、ワイヤレスキーボードは増産傾向が続いています。しかし、下期は控えめに上期と同程度の売上を予想しました。

電源事業は、上期は米国の開発拠点の集約を実施し、PSI社の閉鎖を実施するなど、収益改善のための施策は概ね計画通りに進行しています。

営業利益推移



25

MINEBEA NME

今期の営業利益は8%台まで低下すると見込み、気を引き締めて、一層の製造原価低減と経費削減を図る所存です。

利益改善のための施策

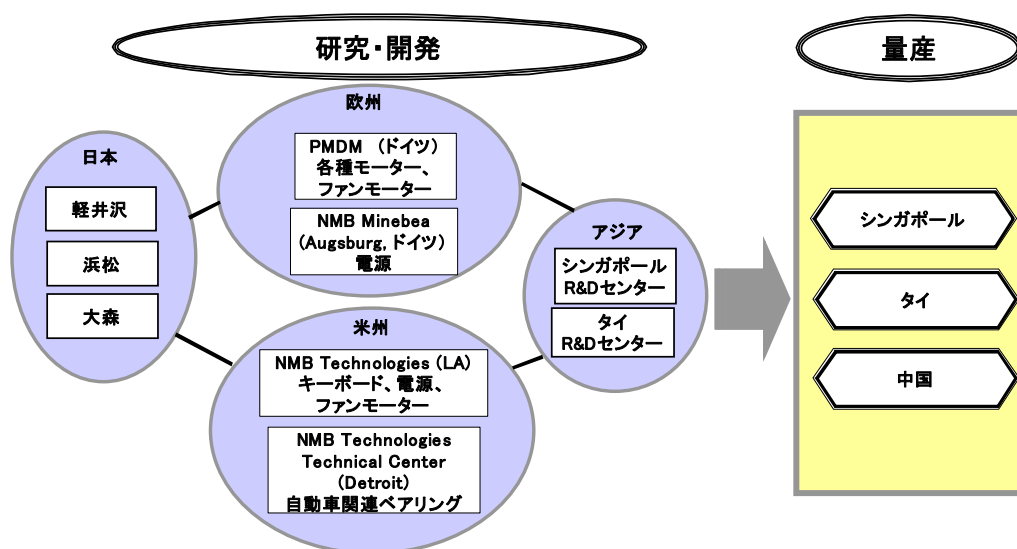
- ◆ 製造原価、経費の削減
- ◆ 設備投資の重点配分
期初計画比 20億円強削減
- ◆ 業務改革委員会の設置
間接部門経費削減、ITシステムによる効率化
- ◆ 法人税率の改善
今期は子会社からの配当金が増加するため、税効果会計により法人税等調整額が増加。
しかし、キャッシュフローに影響なし。来期は法人税率の改善を図る計画。

設備投資は、重点配分を実施した結果、期初計画より20億円強削減します。

組織全体の見直しや経費削減などを図るべく、業務改革委員会を設置しました。間接部門経費の削減やITシステムの活用による効率化を予定しています。

海外子会社からの配当金が増加するため税効果会計により法人税等調整額が増加し、通期は法人税率が高く最終利益が圧縮される形になっています。キャッシュフローには影響しません。来期以降は、ミネベア単体の利益水準を見直し、法人税率を40%にまで改善したいと考えています。

研究開発体制



27

MINEBEA NMB

今期は、当社にとって非常に困難な事業環境に直面することになりましたが、このような状況のなかで、当社として何が課題であるか、また方向性について簡単にご説明します。

当社では、ベアリング事業を核としながら、回転機器事業を第2の柱に育てることを経営の目標としていますが、小型精密モーター業界は、現在変革の時期に来ていると認識しています。小型精密モーターの用途はPC、家電、情報端末や自動車のようにグローバルであり、また、新分野でも価格に対する厳しい要求があります。当社としては、今まで培った製造のノウハウと技術に加えてタイや中国を中心製造拠点とした大量生産の強みを発揮して、小型精密モーターでのシェア拡大及び新規分野への参入をし、事業拡大を図る方針です。手段としては、他社との提携やM&Aも含め、全ての可能性を視野に入れたと考えています。

どのように全体の事業拡大を図るかが、現在、経営陣が最も注力している課題になっています。

ミネベア株式会社中間決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。
実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。
実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。